

令和2年度 学校経営計画に対する最終報告書

石川県立宝達高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
1 3年間を見通した学力向上の取組とキャリア教育の充実によって、生徒の進路実現100%を目指す。	① 授業に臨むときの基本的な姿勢や規律ある学習態度の定着を図る。	各教科 教務課	学習規律（学びの4か条）を守っている生徒の割合が A：100% B：95% 以上 C：90% 以上 D：90% 未満	生徒調査（12月） A(32.2)+B(54.8) = 87.0% 達成度：D	昨年度同期より4.5ポイント高くなったが、中間評価時より9.4ポイント減少した。ベルでの着席はほぼできているが、ベルでの学習に至っていない。生徒全員が気持ちよく学習に臨むことができる環境づくりは、学習の基本であり、注意喚起を常に継続して行う必要がある。
	② 授業での学習内容が次の授業につながるような取り組みやすい学習課題を与えてこまめにチェックし、個に応じた助言・支援とともに褒める機会を増やす。	各教科 教務課 各学年	授業外学習時間が60分以上の生徒の割合が A：70% 以上 B：60% 以上 C：50% 以上 D：50% 未満	生徒調査(12月) 120分以上 13.0% 60~120分 33.9% 60分以上合計 46.9% 達成度：D	1時間以上の学習時間を確保している生徒の割合は、昨年同期より4.7ポイント高くなったが、中間評価より5.7ポイント減少した。30分未満の生徒も増加しており、特に3年生に関して、進路先決定後も、生徒が自分の進路希望に応じた目標設定ができるように指導し、資格取得や検定合格にも積極的に取り組むように仕向けたい。また、1・2年生については、授業と家庭学習のサイクルの定着に向けて、研究を続けていかなければならない。
	③ ICTの効果的な利活用や協働学習、双方向型授業、思考を促す発問等の授業改善に取り組み、思考力・判断力・表現力を育成する。	各教科 教務課	生徒同士の意見交換や発表等、生徒が相互に高め合う機会を授業で設けていると評価する教員の割合が A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満	教職員調査（12月） A(61.1)+B(22.2) = 83.3% 達成度：B	中間評価より5.6ポイントの減少が見られたが、昨年同期より16.6ポイント高くなった。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、生徒同士の意見交換の場を持ちにくく、協働学習の場を省くこともあった。ICT機器の環境が徐々に改善されており、次年度は、その活用の仕方について工夫をしながら指導法の改善につなげていきたい。
	④ 各種研修や互見授業、授業参観等を通して、学習指導方法の改善に努める。	各教科 教務課	授業がわかりやすいと感じる生徒の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満	生徒調査（12月） A(39.1)+B(53.9) = 93.0% 達成度：A	後期は学習内容の難易度が上がることもあり、A評価については2.0ポイント減少しているが、A・B評価としては中間評価時より2.8ポイント高くなった。学び直しを含めた指導が定着したように思われるが、生徒によっては、学び直しが十分と感じることができない者もいる。今後も個々の生徒が抱える躰きに気を配りながら、各種研修等を通して研鑽を続けていきたい。
	⑤ 段階的に上級学校や関係機関・地元企業との連携を通して、生徒の進路意識を高めて早期に進路目標を設定することができるよう支援する。	進路指導課 各学年	各学年のキャリア学習が進路選択に役立っているとする生徒の割合が A：95% 以上 B：85% 以上 C：75% 以上 D：75% 未満	生徒調査（12月） A(23.5)+B(42.6) = 66.1% 達成度：D	1学期に進路行事を実施できなかったことにより、計画通りの指導を行うことが難しい状況にあった。それでも達成度としては非常に低く、次年度はキャリアパスポートをもっと有効に活用し、生徒一人ひとりが早期に進路目標を設定できるようなアプローチをしていきたい。

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）	
1	3年間を見通した学力向上の取組とキャリア教育の充実によって、生徒の進路実現100%を目指す。	⑥ 進路ガイダンスとカウンセリングを充実させる。生徒一人一人の状況を把握し、目標の見直しを支援する。また、生徒の希望・適性・能力に合致した進路指導に努める。	進路指導課 各学年	生徒の進路実現率が A：100% B：95% 以上 C：90% 以上 D：90% 未満	生徒調査(1月) 67.6% R3.1.26 現在 達成度 D	4・5月の臨時休業で、思うような進路指導ができなかった。また、コロナ禍における進路先の不安が多くあり、生徒たちの進路決定が難しい年となった。1年時より着実に進路に対する明確な目標を持たせ、長い時間をかけて考えさせていく活動を多く取り入れていかなければならないと痛感した。また、保護者への情報発信の工夫も大切であると感じたので改善していきたい。
学校関係者評価委員会の評価		進路目標を設定し支援することは、元々大変難しいことだが、3月から5月までが臨時休業だったのでなお更難しかったと思われる。学校内のWiFi環境が整備されたら、タブレットなどを積極的に活用してほしい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策		双方向のリモート学習を進められるよう、校内研修や自己研修で教職員の技術を高めたい。キャリアパスポートを有効活用して、真剣に自己の進路を考えさせたい。また、企業ガイダンスや進路ガイダンスをとおして、生徒の職業観を高めたい。				

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
2 自主自律の精神を持った社会人としての資質・能力を身に付ける。	① 学校内外の日常生活の場面で、TPOをわきまえた判断と言動ができるように指導を行い、社会の一員としての自覚を促す。	生徒課 (生徒指導) (生徒会)	生徒同士や職員、外部の来客や地域の方々に対し、自分から進んで挨拶ができ、服装・頭髪の身だしなみがきちんとしていると答えた生徒の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：75% 未満	生徒調査(12月) 挨拶 A(47.0)+B(33.0)= 80.0% 達成度 C 頭髪・服装 A(47.0)+B(47.8)= 94.8% 達成度 A	社会が新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、コミュニケーション自体が積極的にできない雰囲気の中でのポイント減少が一因として考えられる。また、服装・頭髪においては大きくルールから逸脱している生徒は少ないが、毎日の生活の中で気をつけるべき爪の手入れなどができていなかった。また、頭髪も若干目にかかるというあまり目立たないような違反も見受けられた。次年度は、生徒と接する機会の多い担任などと連携し、指導したい。
	② 基本的な生活習慣確立のために年間5回「生活実態調査」を実施し、生徒一人ひとりの生活状況やいじめ等の悩みを把握し指導に活かす。	生徒課 (厚生)	生活実態調査の結果が個々の指導に活かされていると答えた教員の割合が A：100% B：95% 以上 C：90% 以上 D：90% 未満	教職員調査(12月) A(42.1)+B(42.1) = 84.2% 達成度：D	昨年度3月より臨時休業となり、生活リズムを維持することが難しかった生徒が多く見られた。6月の学校再開後の生活実態調査結果を細かく分析・提示し、指導に繋げる工夫が必要であった。また、保護者へ情報を提供し、協力を求めていくことも必要であった。次年度は、調査結果の分析を丁寧に行い、保護者の協力を得ながら生徒の指導を行っていききたい。
学校関係者評価委員会の評価	挨拶や服装等について地域からは、特に問題がないように思われていると思う。高校生らしい態度や服装で勉学に勤しんでほしい。生徒の自主自律に対する感覚と教職員の持つ感覚はほぼ同じようである。生徒の自主自律の精神をもっと伸ばしてほしい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	早朝の登校指導を継続して行いたい。挨拶の励行や感染症拡大防止のためのマスク着用、消毒の徹底を、引き続き生徒に呼び掛けていきたい。年間5回の生活実態調査を実施し、結果を分析し、面談などをとおして生徒一人ひとりにあった適切な指導を行いたい。				

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
3 宝達高生としての誇りや自己有用感を高めながら、人間性や社会性を磨く。	① 日々の清掃活動を通して、奉仕の心やものを大切にすることを養う。また、美化コンクールを通じて、他と協力しながら働くことの意義を確認し、活動成果を褒めることにより、自己有用感を高め、主体性を育む。	生徒課 (厚生)	役割分担をし、協力して清掃活動に取り組んでいる生徒の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満	生徒調査(12月) $A(60.9)+B(35.7) = 96.5\%$ 達成度 A	新型コロナウイルス感染症予防のため、清掃活動に消毒作業も加わった。限られた時間内に協力して清掃に取り組む生徒の姿が見られた。また、校内美化コンクールの開催で、より清潔な環境を維持するという意識が高まった。
	② 部活動の組織的運営を図り、自主的・継続的に部活動に取り組むことができるよう指導する。限られた時間を有効活用し、競技力・表現力の質の向上を目指すことで個々の人間力を高める。	生徒課 (生徒会) 各学年	部活動に加入し、継続的に取り組んでいる生徒の割合が A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満	生徒調査（12月） $A(53.9)+B(28.7) = 82.6\%$ 達成度：B	多くの大会が中止になるなか、生徒のモチベーションはなかなかあがらず、活動に活気がないように見られた。次年度に向けて、部活動の指導が、生徒の意欲的な活動を引き出し、生徒の学校生活を活性化させることにつながるの思いをもち、部活動に取り組んでいきたい。
	③ 地域への貢献活動やボランティア活動に積極的に取り組むことにより、生徒の成長を促す。また、地域活動を通して、自己の在り方生き方を深く考える時間を増やす。	生徒課 (生徒会) 各学年	地域への貢献活動やボランティア活動に取り組んだと答えた生徒の割合が A：80% 以上 B：75% 以上 C：65% 以上 D：65% 未満	生徒調査(12月) $A(30.4)+B(32.2)= 62.6\%$ 達成度 D	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、ほとんどの地域への貢献活動やボランティア活動が中止になった。次年度は、いま自分たちに何ができるのかという観点で地域貢献活動などを生徒に考えさせ、活動していきたい。
学校関係者評価委員会の評価	地域へ出る活動ができなくなったのは理解できるが、その中で今できる地域活動やボランティア活動について講演できる講師を学校に招くなど、実働でなく、考え方など内面を高める活動を行うべきではなかったか。コロナ禍におけるボランティア活動を考える機会が必要であると思う。地元のカントリークラブのプロなどと提携し、部活動を盛り上げてほしい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	新型コロナウイルス感染症拡大終息を願いながら、地域へのボランティア活動や部活動の活性化につながる活動を計画し実践したい。生徒の自己有用感を高め、主体性を育みたい。				

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
4 地域との交流・連携を密にし、地域に信頼される開かれた学校づくりを推進する。	① 学校からの配布物やホームページ（HP）等の情報を通して、生徒、保護者および地域住民に本校の教育活動を理解してもらう。	総務課 各学年	学校からの配布物やHP等による情報が、教育活動の理解に役立つと答えた保護者の割合が A：90% 以上 B：85% 以上 C：80% 以上 D：80% 未満	保護者調査（12月） A(70.0)+B(26.4) = 96.4% 達成度：A	7月と比較するとA評価が63.3%から6.7ポイント上昇している。また、昨年度と比較するとA評価が64.2%から5.8ポイント上昇している。このことから、学校からの配付物、HP等による情報発信の成果は上がったと考えられる。 課題としては、部活動のHPの更新が滞っている所があるので、全職員がこまめに記事を更新する体制を整えていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	学校からの情報発信は適切であったと考えられる。今後もスピード感をもって、正確な情報提供をお願いしたい。いろいろな情報発信があるだろうが、伝え方を工夫して宝達高校独自のものを作り上げてほしい。YouTu部などをつくり、宝達高校や地域のことを動画で発信してほしい。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	学校ホームページの更新回数を多くして、スピード感をもって情報提供したい。また、行事等を撮った動画を多く配信し、生徒の様子を生徒、保護者、地域の方々に知らせ教育活動の理解を図りたい。探究型学習推進や地域交流による学校活性化活動をとおして、能動的に学ぶ姿勢を育てたい。				
重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の扱い（改善策等）
5 教職員は、ワークライフバランスやタイムマネジメントを意識しながら、組織的で効率的な働き方に努める。	① 限られた時間を意識した働き方を行う。若手教員に対するサポート体制を維持する傍ら、若手教員にも責任ある企画や運営に参加させるなど、業務の平準化を図る。	各課主任 教科主任 部活動顧問	見通しを持ち計画的・効率的に業務を遂行することができた教員の割合が A：90% 以上 B：80% 以上 C：70% 以上 D：70% 未満	教職員調査（12月） A(50.0)+B(50.0) = 100.0% 達成度：A	限られた時間内で、計画的かつ効率的に業務を遂行している職員が増えたと考えられる。若手教員早期育成プログラムも順調に進んでいる。毎月の勤務時間入力で、自分の勤務時間、時間外勤務時間を把握しつつ毎日の勤務時間を意識しながら勤務している教職員が多くなっている。今後は、創造的な発想で学校をより発展させていくため、今まで以上に「チーム学校」の意識のもと、組織的に業務を進めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	今年度は、重点目標達成率が前期・後期とも100%だった。よかったと思う。素晴らしいことだ。来年度は、目標内容や達成度判断基準を変更したほうが良いと思われる。				
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	組織的で効率的な業務の遂行に努め、生徒と向き合う時間の確保とワークライフバランスを考えた働き方を行ってほしい。来年度は、具体的取組を再考し、明るく、いきいきとして学校づくりを進めたい。				